

全学共通科目
(旧 教養科目)

【講義内容】 運動学習における視知覚や運動感覚の役割。練習法と学習効果、フィードバック情報の利用、学習効果の転移、その他運動学習に関わりの深い心理学的事象についての実験や測定を通して、運動技術の習得に関して科学的分析を試みる。また、実習が中心となる関係で、受講者数は30名程度を上限とする。

【講義計画】 前半の授業では、運動学習に関わる心理学的諸問題について解説すると共に、基礎的実験を行う為の器具・備品の扱い方や、結果の処理法について概説する。次いで、2～3名のグループを編成し、①練習法の差異が学習効果に及ぼす影響 ②結果の知識の有無と学習効果の関係 ③練習法の違いが習得技術の保持に与える影響 ④練習効果の転移 ⑤筋力発揮と心理的条件 ⑥パフォーマンスと競争効果 ⑦疲労の運動パフォーマンスに与える影響 ⑧体協競技意欲検査による大学運動部のやる気、などの中から適したテーマを選び、研究計画を策定する。後半の授業時間は、研究計画の遂行（グループで実施）及び報告書の作成（各個人毎）・発表に充てる。尚、被験者は本演習の受講者またはクラブ部員に依頼する。

【評価方法】 出席状況・活動状況・報告書のないようなどにより総合的に評価する。

【テキスト】 授業用資料はプリントして配布する。
参考資料 体育心理学研究会編「体育心理学実験演習概説」（大修館書店）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03621	スポーツ科学演習II（応用身体運動学）	選	1～4	2	後期	三浦修史
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 応用身体運動学（選手のためにスポーツを科学する）

【講義内容】 スポーツ演技の多くは、単に身体や身体各部分が運動するという以上のものを含んでいる。たとえば、ボール、バット、ラケット、クラブなどの用具を操作するという場合、単に機械的動きというものではない。それらの用具をどのように操作するかということが結果に影響をおよぼすのである。授業では、個人が興味を持つスポーツ技術を対象に合理的な動きとはどのようなものを究明する。よって、スポーツ活動を行っている学生の受講を希望する。ただし、身体運動学、基礎身体運動学の履修を終えた者にかぎる。

【講義計画】 基礎身体運動学ですでに習得した。高速ビデオ撮影技術と動作解析装置の操作技術を最大限に生かして、学生個人が積極的に実験に取り組むことを目標とした授業で、最初に、実験計画を提出してもらおう。この計画をもとに、研究をすすめて、結果を図表にまとめ、それについてのレポートを作成する。

【評価方法】 最初に作成した計画にしたがって、率先して研究に取り組み、分析した結果をレポートにして提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03801 ） 03810	情報リテラシー	選	1～4	2	前期 後期	真野芳久 村本正生 山田進満 野呂昌満
他の科目との関連	特になし			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 世の中、まさにマルチメディア時代である。すばらしい能力を持ったパーソナルコンピュータを各人が所有できる時代である。このコンピュータの持つ能力を我々自身の力とし、それを土台として人間の創造性を高めようというのがコンピュータリテラシーの基本であろう。
この授業では、コンピュータに関する基礎技術を学習する。基礎技術であるので身につくまで反復練習が必要である。授業ではその手ほどきするだけでなく、身につくつかつかないかはあなた方の意欲と熱意である。情報システムの最も基本的な概念の理解と基礎的なコンピュータ操作法の習得

を目指す。

- 【講義計画】 コンピュータ操作を中心に、基本的情報システム概念の説明を織り混ぜて12回の授業を行う。
- ・コンピュータの出来ることとその仕組み
 - ・パソコンの機能説明とオペレーティングシステムの役割（ハードウェアとソフトウェア）
 - ・文書処理（ワープロ）：データ入力、日本語変換、文書編集と印刷
 - ・データベース：データの蓄積と検索照会・表示、図書検索システム（GEMMA 2）
 - ・マルチメディアとコンピュータネットワーク：パソコン通信、インターネット通信
 - ・表計算とグラフ化
 - ・情報セキュリティと情報倫理

- 【評価方法】 各テーマ毎に課題を出し、結果を提出してもらい評価する。日頃の出席や理解度を勘案して評価する。

- 【テキスト】 使用ソフトウェアの操作手引書は教室に用意する。また必要に応じて補助資料を各人に配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03901	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	栗村 道夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

- 【副 題】 クローデルの詩と演劇の世界

- 【講義内容】 現代フランスの詩人、劇作家ポール・クローデル（1868-1955）の主要な作品（『黄金の頭』、『詩法』、『真昼に分かつ』、『人質』、『マリアへのお告げ』等）を年代順に通観しながら、その人間観と世界観とを考究する。

特に、駐日大使時代（1921-27）に執筆した、クローデル劇の総合と見做される大作『縞子の靴』を取り上げ、「愛と救霊」の壮大なドラマの意味を考察する。この20世紀フランス演劇の傑作に描かれた人間像を把握し、その生き方を省察してみたい。

1943年パロー演出によりフランス劇場で脚光を浴び、更に1987年ヴィテーズ演出によりアヴィニョン演劇祭で好評を博した大作を再評価する機会となれば幸いである。

- 【講義計画】 テキスト（日本語訳）抜粋や論文抜粋を授業中に配布し、学生と一緒に読み合って考えて行きたい。画一的な読み方ではなく、多様性を重んじ、独自の読み方を大切にして意見を交換できればと思う。そのために授業内容に関する短い感想文を授業時間の終りに書いてもらう。また戯曲鑑賞の一助とするために、折に触れて上演の際の録画をビデオで見る予定。時間の余裕があれば、『縞子の靴』以後の作品、たとえば『クリストファー・コロンブスの書物』、『火刑台上のジャンヌ・ダルク』等についても言及する。

- 【評価方法】 前・後定期試験、上記の感想文、授業への出席状況により総合的に評価する。

- 【テキスト】 拙著「ポール・クローデルの戯曲『縞子の靴』の成立過程研究」（三編の論稿の抜刷製本）を授業中に配布する。参考文献については、授業中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03902 03917	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	各4	通年	長倉 久子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

- 【副 題】 個人・人格・自己

- 【講義内容】 人間はひとりひとりかけがえのない存在であると言われるが、それは一体どのようなことを意味しているのだろうか。そして、どのような根拠に基づいてそのように言うことができるのだろうか。人間の「かけがえのなさ」について個人・人格・自己の意味を考えつつ考察してみよう。

- 【講義計画】 講義は次の順序で進められる予定である。

- ①個人とは何か
ここでは個体の考え方がどのように生じてきたかについて考えてみる。
- ②人格とは何か
「人格」と訳される「ペルソナ」という言葉は、どのようにして生まれ、どのような意味を与えられてきたかを考える。
- ③自己とは何か
最後にひとりひとりの「かけがえのなさ」を自己とは何かを考えつつ考察する。

【評価方法】 筆記試験。出席率も参考にする。また場合によりレポートを課す。

【テキスト】 適宜、参考書を挙げる。またプリントも配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03903	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	蒔苗暢夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 古代・中世における人間論

【講義内容】 今日我々がかかえている、愛、技術といった問題を、古代・中世の思想を手掛かりに考察する。

【講義計画】 以下の順にしたがって考察する。

1. 愛について
 - ①愛と訳されることば
 - ②プラトンにおける愛
 - ③アリストテレスにおける愛
 - ④トマスにおける愛
2. 技術について
 - ①人間の知的能力について
 - ②プラトンの技術観
 - ③アリストテレスの技術観
 - ④トマスにおける思弁知と実践知について

【評価方法】 出席情況と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 プラトン『饗宴』（新潮文庫）、アリストテレス『ニコマコス倫理学』（岩波文庫）、その他適宜プリント配布

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03904	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	小池英光
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 近代世界の人間像

【講義内容】 （前期）近代の人間像の生成：今日、人間には犯しえず、譲りえない基本的権利があると考えるのが普通である。一方、歴史を振り返れば、戦争と略奪のない時代は無かったと言って過言ではない。こうした理論と現実のずれはなぜなのか。ここには何か見落とされたものがあるのではないか。このような視点から近代の人間像の成立過程をたどりなおしてみたい。
（後期）人間像の再構築：人間を捉らえる視点は現代でははるかに多様化している。単一の人間像を描くことは今日では不可能にもみえる。人間像への現代的アプローチのいくつかを概観・検討し、そこから悪とは何か、何が悪をもたらすかを考察し、人間と社会の新しい関わりの可能性を探ってみたい。

【講義計画】 （前期）ほぼ以下のテーマについて検討する。序論：問題の所在、人間像の諸相、近代人間観の背景、普遍的理性の人間像、反抗する理性、無神論の人間像、自然的理性の人間像、近代人間

像の光と影、など。

(後期) ほぼ以下のテーマについて検討する。近代的人間観の崩壊、ニヒリズムと論理の相対化、多様な人間像、悪の起源、現代における悪、行為と責任、相対的人間像と現代倫理の基礎付けの試み、など。

テキストは使わない。それぞれのテーマにつき参考文献を指示し、同時に講義概要を配布する。

【評価方法】 参考文献中指示した部分を事前に読んで来ることを義務づけ、時にその要旨を述べてもらうこともある。また、一定の時間を使って、受講者との質疑応答を予定している。質疑応答への積極的な参加を期待し、それを成績評価に反映する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03905	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	中 矢 俊 博
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 人間と経済

【講義内容】 偉大な経済学者アルフレッド・マーシャルは、「経済学は日常生活を営んでいる人間に関する研究である。……………それは一面において富の研究であるが、他のより重要な側面においては人間の研究の一部なのである」と述べている。このクラスでは、過去の偉大な経済学者の人間観についての考察を下に、現在おこっている経済現象を共に考えていこうと思う。

【講義計画】

- ① アダム・スミスの「見えざる手」の思想
- ② リカードウの自由貿易思想
- ③ マルサスの人口法則
- ④ マルサス；F・リストの保護貿易思想
- ⑤ ジェヴォンズの限界効用理論
- ⑥ カッセルの外国為替理論
- ⑦ コンドラティエフの景気循環論
- ⑧ マーシャルの需要論
- ⑨ J・M・ケインズの雇用論
- ⑩ フリードマンの物価論

上記の論題を講義参加者と共に考えていく予定。

【評価方法】 前・後期の定期試験の成績、ならびに時折おこなうレポートや出席チェックを統合して評価する。

【テキスト】 マーク・ブローグ著中矢俊博訳『ケインズ以前の100大経済学者』（同文館出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03906	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	家 本 博 一
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 戦争と人間

【講義内容】 本講義では第二次世界大戦及びその前後の時期に生じた欧州とアジアでの出来事を主な対象として、戦争と人間の問題について所説を述べ、受講生と論議を進めたい。その際、各種の文献、資料、史料、ビデオ教材、写真集などを活用して、戦争という場面で何が起こり、その結果として何が残されたかについて振り返る。

また、本年度が第二次世界大戦終了50周年であるため、本講義の最後では、わが国における極東軍事裁判直前での米ソ両国による昭和天皇の非訴追問題について、最近判明した事実を紹介しつつ、わが国における戦後処理問題を考える。

【講義計画】 本講義で論じる課題は、以下の通りである。

1. 第一次世界大戦とその後の「ヴェルサイユ体制」
2. 列強の台頭とその状況

3. 第二次世界大戦とその後の極東軍事裁判
4. 米ソ冷戦構造下での代理戦争・紛争
5. 1970年代初めの「デタント」とその政治的、経済的、軍事的な意義
6. ブレジネフ政権時代の米ソ冷戦体制
7. 「ベレストロイカ」時代とその政治的、経済的、軍事的な意義
8. 「1989年東欧革命」と「1991年ソ連邦の消滅」
9. わが国における戦後処理の問題

【評価方法】 本講義では、筆記形式による前期・後期の定期試験と出席状況の結果を総合して、評価を下す。

【テキスト】 1. 受講生は、本講義の中で提供される各種の文献、資料のみならず、指定図書として図書館で閲覧可能な図書類を積極的に活用していただきたい。
2. 本講義では、受講生との活発な論議を期待しているので、受講生は、戦争と人間の問題について、各自積極的に取り組んでいただきたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03907	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	高橋 広次
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 自然法論における人間の尊厳

【講義内容】 「人間の尊厳は不可侵であり、これを尊重することは、すべての国家権力の義務である」は、ドイツ憲法の第一条の文言である。しかし日本国憲法では「個人の尊重」の規定はあるが、はたして両者は同一のものであろうか？もしそうでないのならそこには何か異なった思想的な背景があるのかもしれない。本講義は、「人間の尊厳」と「国家権力」との関係を概念的かつ歴史的に整理してゆくなかで、前者の深い形而上学的な意義にまで遡って明らかにする。

【講義計画】 講義はこのテーマに関する内外の文献紹介と「人間の尊厳」の概念史をまず説明してから、以下の順序で進められる。

- ①人格とは何か？
- ②人間の尊厳の法的意義
- ③国家権力の分析
- ④人間の尊厳のための国家権力
- ⑤人間の尊厳と人間の責任

【評価方法】 成績の評価に際しては、前期・後期の定期試験の結果をそれぞれ均等にカウントする。ときおり提出を求められるレポートも評価の対象に加える。なお毎回の講義の出席を特に重視する。

【テキスト】 ホセ＝ヨンパルト著『人間の尊厳と国家の権力』成文堂

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03908	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	阿江 茂
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 人間と環境

【講義内容】 生物の一種としての人間は、昔、きびしい地球の環境の中で、伝染病の病原体などをふくむ他の生物と争いながら、その種を維持しつづけてきた。しかしその後次第に他の生物をおしのけて環境を独占するようになった。しかし現在の人間も他の生物と共生しなければ、食物もよい空気も得られない存在であるので、いろいろの面においてジレンマにおちいつている。この問題を、その基礎科学としての生態学 (Ecology) により考察し、また「環境保全」、「公害」などの現実の問題にふれながら、この面より人間について考えてゆく。

【講義計画】 1. 2. 環境問題の歴史と現在と未来、3. 4. 生態学の定義と守備範囲、生態系(Ecosystem)

とは、自然とは、ホメオスタシスとは、5. 6. 7. 生態系の姿、測定方法、宇宙船地球号、8. サング礁、9. 光合成、10. 分布、生息場所、地位、優占種、11. 12. 種類構成の多様性の重要さ、松の立枯の眞の原因、13. エネルギーの一方的な流れと物質の循環、肉食と植物食、14. 食物連鎖、生物の大きさと代謝率、15. 極相と遷移、自然環境の保全の根本、16. 17. 残渣食物連鎖、農地と牧畜地の正しい管理、18. 19. 地球の生産力の地域的な差、最小の法則、現在の農地、牧草地の抜本的な改善と砂漠の緑化、20. 21. 放射能の人および自然全体への影響、生物体への放射能や有機水銀などの蓄積、放射線障害、みなまた病、22. 23. 生態的指標生物とそれによる環境の保全、24. 25. 26. 人類の将来、人はこれだけの数に増えてしまったとはいえ、共に生きる道を求め、他の生物との共生を求めて、自然に返らなければならない。

【評価方法】 文系中の理系の講義であるため出席重視、試験は教科書、プリント、手書のノートを用いて試験場でレポートを書く。

【テキスト】 オダム生態学

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03909	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	佐々木 亘
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 自由と尊厳

【講義内容】 現代に生きる我々にとって、自由であるか否かは、非常に重要な関心事になっている。しかしながら、これほど、我々が欲し、求めるところの自由は、一体、何なのであろうか。多くの思想家にとって、人間の尊厳は、物質的必然性からの自由に求められているが、そもそも、その自由とは何を意味し、また、どのような仕方で行われるのであろうか。

本講義では、特に西洋古代・中世の人間論を手がかりにして、人間が持っている、あるいは持つことができる、更には持つべき「自由」についての考察を通じて、人間の尊厳の内容とその方向性について探求して行きたい。

【講義計画】 自由とは何かという問いは、自己への問いを離れては成立しないが、人間への問いを前提とする以上、単に主観的な地平のうちに捉えられるとも思われない。従って、人間の自由と尊厳を、真に自己の問題として考えるためにも、思想の歴史を振り返ることが、大変重要であると言えよう。そこで、この講義では、

1. 人間と自由に関する問題点を整理し、自由への問いを自己への問いとして位置づける。
2. 思想史において、人間とその自由がどのようにして捉えられてきたかを、個々の思想家に即して考察し、人間の尊厳への展望を吟味する。
3. 現代に生きる我々にとって、人間と自由に関する個々の思想が如何なる意義を有するかを検証する。という順序で、人間の尊厳への理解を深めて行きたい。

【評価方法】 人間の自由と尊厳に関する客観的な知識が、どれだけ主観的な問いかけの中で活かされているかを、試験等を通じて、総合的に評価する。

【テキスト】 主なものは、講義中に指示するが、全体の参考書としては、『アウグスティヌス講話』（山田晶著、教文館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03910	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	大森正樹
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 人格をめぐる諸問題

【講義内容】 我々が西洋思想に出会う時、必ず問題となるのは「人格」という考え方である。言葉では何となくわかったつもりになっている「人格」をはたして我々は理解しているのであろうか。又、西洋的に捉えられたもののみが「人格」の眞の姿なのであろうか。以上のことをめぐって、学生諸君が自

らの力で考えを押し進めていけるよう援助することを目的とする。

- 【講義計画】 上述の目的に沿って
- ①「人格」という言葉の起源と意味
 - ②西洋の古代から中世までの人格概念の成立過程の概観
 - ③日本人の人間関係
 - ④森有正の思想の特質と人格概念
 - ⑤ブーバーの「我と汝」における人格
 - ⑥フランクフルによる人格のとらえ方
- 等をめぐって考察する。学生諸君は以上の情報を受動的に捉えられるのではなく、主体的に自分の問題として考えていってほしい。授業中の質問は歓迎する。

【評価方法】 前・後期の試験の成績と出席状況を加味して判定する。

【テキスト】 特に用いない。必要ときにはプリントして渡す。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03911	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	田村 均
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 共同体と個人——犠牲的行為の倫理学——

【講義内容】 本講義は、「犠牲 (sacrifice)」という行為類型を手がかりにして、共同体と個人との関わりを幅広く考察する。日常生活の中の小さな自己犠牲から、宗教上の犠牲儀礼や社会的暴力と犠牲 (victimization) といった問題までを考察の対象とし、個人と共同体の動的な関係を考えてみたい。

- 【講義計画】
- (1)はじめに
 - (2)宗教学による犠牲概念の分析
タイラー、ロバートソン・スミス、アンリ・ユベール&マルセル・モース、ルネ・ジラルドなどの犠牲の分析を取り上げ、宗教的現象としての犠牲の意味を考察する。
 - (3)日本史・日本思想史における犠牲的行為
モーリス・パンゲ『自死の日本史』、作田啓一『恥の文化再考』、巢鴨遺書編集集会編『世紀の遺書』などを取り上げ、日本史と日本思想史の中における、犠牲的行為の意味づけを考察する。
 - (4)個人の自律 (autonomy) と犠牲的行為
西欧近代の倫理思想からカント主義倫理と功利主義倫理を取り上げ、このような個人主義の倫理思想において犠牲的行為がどのように意味づけられ得るのかを考察する。
 - (5)むすび
犠牲・愛・疎外の同型性について

【評価方法】 前期と後期に各一回の筆記試験を行なう。試験問題 (数題から一題選択) は約2週間前の授業時に公開する。参考物の持ち込みは不許可。

【テキスト】 授業時にプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03912	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	赤松 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 現代思想の展開

【講義内容】 現代の思想に大きな影響を及ぼした思想家を数人選び、その思想を可能な限り詳論する。

【講義計画】 先ず前期は、現代の思想に多大な影響を与えたデンマークの思想家、キェルケゴールを選び、彼

の生活と思想を詳論する。後期は現代の思想界を大きくリードした思想家としてハイデガー、サルトルをとりあげ、「存在と時間」、「存在と無」の解説を試みる。

【評価方法】 受講状態、レポート及び試験の成績等を総合的に加味して評価する。

【テキスト】 工藤綏夫著「キルケゴール」（清水書院）
松浪信三郎著「実在主義」（岩波新書）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03913	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	桑原直己
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 「人格とその尊厳について」

【講義内容】 「人格」およびその「尊厳」の概念の起源について考察する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03914	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	蛭田(まどか)庸代
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 生命（いのち）と論理（ことば）

【講義内容】 本講義では、「いのち」をキーワードとした人間論及び現代未来の学問や自分自身の在り方を共に探求することを目指す。

人が人間らしく「生きる（息ル、意気ル、云い切ル、活ル、逝ル）」とはどういうことなのかを生命科学・生命倫理・人間関係論・体験学習法の視点から促える。

その為に、ライフサイクルの諸段階（いのちの誕生・出産・教育・コミュニケーション・出会い・死等）に於ける生命観・女性男性観の見直しや、先端医療技術と日本人文化の課題分析作業を通して、私たち現代人が、生死の定義をどのような場面でのどの様にしているか考察し、自己の生命観を言語化する。

【講義計画】 自分を見つめることとグループと共生し合うことを重視し、アサーション（自己知と自己表現）トレーニングを試みる。

前半は、Life-fantasy, Assertion, Non-verbal-communication, Group-process, Concesesus等のLaboratory-method によるいのち論プログラムを行う。

後半は、医療での自己の意思決定autonomyの場面（脳死、人口妊娠、看病、安楽死etc）を想定し、興味あるテーマ毎に、研究調査ルポし、role-playingとグループ研究発表を行う。

講義に参加する毎に自ずとレポート作成が出来る無理のないプログラムになっているので、最終的には、「わたしの生命論ノート」というファイル形式でレポートを提出する。

【評価方法】 その人の「いのち観」のABC評価は不可能不本意なので、自己評価。「ことばによる生命論の言語化」はファイルの創意工夫度、出席回数並び自己存在感のあるプログラム参加度等で評定させて頂く。

【テキスト】 文献表リスト、プリント物、VTR等、適宜提示。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03915	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	通年	山田弘明
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 哲学と人間

【講義内容】 「哲学」は西洋古代に起源を発する学問である。前期は、日本人にとって「哲学」とは何であったかという問題意識の下に、近代日本の哲学を歴史的に振り返る。とくに西田幾多郎の若い時代の日記や著作をとりあげ、人生、死、自我、経験、宗教などの問題を考える。後期は、フランス17世紀の哲学者デカルトのテキストを読みながら、人間論を中心とするかれの思想と生の軌跡をたどる。学問、方法、モラル、精神、神、人間、世界などが主題となるであろう。

【講義計画】 テキスト講読を中心として講義を進める。その際、関連する資料をも随時参照することになる。必要があればビデオ鑑賞を行い、レポート提出、学生自身による口頭研究発表、討論もありえる。学生諸君の授業への積極的参加が求められる。

【評価方法】 出席点を重視するほか、受講態度、レポート、試験などから総合的に判定する。

【テキスト】 前期は資料プリントを配布する。後期は山田弘明著『デカルト『方法序説』を読む』（世界思想社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03916	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	松井良和
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 人間と自然

【講義内容】 本講義は和辻哲郎の『風土』をテキストに使って、人間と自然のかかわりについて考察する。和辻はこの書において、人間の存在構造そのものに自然環境が深く浸透していること、したがって人間のあり方と自然のあり方が分ち難く重なり合っていることを説いているが、この和辻の人間把握にどのような問題点が存するかを教室で論じ合いたい。

【講義計画】 和辻の『風土』の叙述に従って、「モンスーン」型風土、「砂漠」型風土、「牧場」型風土の順に考察を進める。ただし学生各自がテキストを読んできて、要旨を発表し、質疑応答するという形をとるので、各自の予習と下調べが必要である。

【評価方法】 学期末に筆記試験をし、出席状況も考慮に入れて評価する。

【テキスト】 和辻哲郎著『風土』（岩波文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03918	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	内藤克彦
他の科目との関連	文化・社会科学一般の基底としての総合的人間観形成のための一助として			他学科履修		重複履修 不可

【副題】 ゲーテ・シラーの理想主義文学的人間論

【講義内容】 本講はドイツの代表的詩人ゲーテとシラーの著作に見られる理想主義的人間論について学ぶ。両詩人は、それぞれの見地から近代的人間の生の苦悩とその超克への戦いを典型的な形姿の中に描いたが、彼らはその実人生においても、真の人間の生き方を求めて努力を重ねた人々であった。「自然」の人ゲーテと「理想」の人シラーの生きざまと思想を具体的に跡づけながら、現代社会におけるわれわれの生き方について考えてみたいと思う。

【講義計画】 前期：ゲーテの人間論
まず、彼の青年期の抒情詩や恋愛小説の古典『ヴェルター』における激しい人間的自我の主張と、情熱の嵐のあとの壮年期の一連の魂のドラマ、特に『イフィゲーニエ』、『タッソー』、教養小説『ヴェルヘルム・マイスター』、『親和力』、更に晩年の抒情詩や畢生の大作『ファウスト』における彼の諦念的人生観的ならびに世界観的英知を見た上で、エッカーマンの記録した人生論的対話録や自伝『詩と真実』その他を通して、彼の円熟した人間論を見ることにする。

後期：シラーの人間論

まず彼の学生時代の諸論文や青年期の疾風怒濤の戯曲に現れた彼の人間観を見た上で、『歓喜の歌』その他の人生詩、カント哲学研究の成果としての諸論文、特に『人間の美的教育に関する書簡』、『素朴文学と感傷文学について』や『崇高について』、一連の思想詩、更に彼の多数の書簡、特にゲーテとの往復書簡の中に、彼の理想主義的人間論を跡づけることにしたいと思う。

【評価方法】 定期試験（筆答）による。出席も重視する。

【テキスト】 星野慎一著『ゲーテ』（清水書院）
内藤克彦著『シラー』（清水書院）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03919	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	土田友章
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副題】 生命の人間学論

【講義内容】 現在、脳死や臓器移植などを中心としてしばしば話題になっているbioethics（生命倫理学）を紹介する。さらにそこでの諸問題を通路にして、人間と自然（環境）と技術との関わりを検討し、新たな人間学に向かってともに考えてゆきたい。

【講義計画】 1. 生命倫理学とは何か？ 2. 脳死 3. 障害をもった新生児 4. 古い 5. 安楽死・尊厳死 6. death education 7. 臓器移植 8. 医学実験 9. ヒト・ゲノムなどを、事例によって検討しながら、告知、自己決定か否か、公正（正義）とは何か、患者にとっての最善とは、医療の社会化、などの倫理的問題に取り組んでゆく。

【評価方法】 クラスへの積極的参加が重視される。（クラスがあまり大きくなければ討論を行う。）参加者各人が生命倫理的な問題を発見し考察する宿題を課す。また、各期末に小論文が課される。

【テキスト】 テキストはないが、しばしば複写した教材を配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03920	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	橋本昭一
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副題】 近代自由主義の形成と今日の課題

【講義内容】 ○自由主義思想の歴史的展開を説明する。近代的自由主義を語るためには、中世スコラ哲学の人間観、世界観と、ポップス・ロックの社会契約論を基礎とする人間観とを比較することから始めなければならない。
ポップス・ロックからベンサム、アダム・スミスへの思想的展開は、近代的な政治・経済システムとそれを運営する「近代人」の育成のためには、必須の要件であったが、19世紀後半から20世紀にかけて数個の難問題を残してしまった。
○1970年代以降、自由主義に新たな内容をつけ加えようとする動き（ロールズやノジック）があるが、それらを参考にしつつ、人間の尊厳と自由とのかかわりを一緒に考えて見たい。

【講義計画】 I. 古代・中世哲学における自由
II. ポップスとロックの革命性と保守性
III. アダム・スミスとベンサムとイギリス資本主義
IV. 政治的自由と経済的自由
V. 社会的自由を求めて
の順で講義する予定

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 特に定めませんが、そのつど参考文献を紹介する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03921	総合科目II「人間論」	必	2	4	通年	宮原 勇
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 自由と平等について考える

【講義内容】 この講義では、まずヨーロッパの思想の歴史の中で「自由」と「平等」といった考えがどのように発展したかを学んだ上で、現代のわたしたちはそれをどうとらえたらよいかを考える。

【講義計画】 ①ロック『市民政府論』
②ルソー『社会契約論』
(①と②の解説)
③カント『道徳形而上学原論』、『実践理性批判』
(③の要約と解説)
①、②、③の読解・解釈の上になつて、④ロールズ『正義論』の検討を行う。

【評価方法】 講義でとりあげたテキストを参考にして、自分でテーマを決めて、前期・後期の2回、レポートを提出する。評価はレポートと出席を考慮して行う。

【テキスト】 そのつどプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03922	総合科目II「人間論」	必	2	4	集中	杉田 谷道
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 音楽の心：ベートーヴェンの思想と精神性

【講義内容】 ギリシャの「天界の音楽」思想、孔子の「礼楽」論（詩に興り礼に建ち楽に成る）、音楽はどこから来るのか、「心より来る、希わくば再び心に還らんことを（荘厳ミサ曲）」とBeethoven（以下B）の誌した音符の意味を実際に演奏によって音楽美創造の神秘的なプロセスを解明しようとする。ピアノは心のニュアンスを最も純粋に伝えうる歌うcantabile楽器である。Bachの対位法的表現、Mozartの芸術を聴いた後、Bの精神的発展の證しであり精神美の結晶、新約聖書に譬えられる32曲のピアノソナタから重要作品が選ばれ分析と演奏解釈がなされる。各自はプリントされた楽譜を演奏に傾聴しつつ解説し音楽の形式、内容その意味を探る。（このため或る程度読譜力が条件）

【講義計画】 1つの思想イデーの表現であるBのソナタ形式におけるテーマの有機的発展と総合、劇的表現の様式、調性、音性（例：減7度）などBに於いては意味のない音符は1つもない。作品13（ハ短）、27の2（嬰ハ短）、31の2（ニ短）、53（ハ）、57（ヘ短）、81（変ホ）、90（ホ短）を経て最高峰の106（変ロ）、啓示といわれる志高な3曲109（ホ）、110（変イ）、111（ハ短）の精神的解明こそが本講座の中核である。

又この音楽体験のApotheosisとして大学内外からの好楽の士を招き、Lecture Recitalが最終日に催される。人類の永遠の遺産であるこれらの高い芸術にふれることにより、苦悩から喜びを作りだしDurch Leiden Freude、「善への美」の求道者Bから人間愛による世紀へのインスピレーションを汲みとられんことを希う。

【評価方法】 新しい価値観への開眼を含むので、音楽美への志向と読譜力や音楽的体験は必要だが、ピアノ修業年限は必ずしも有利とはならない。聴講態度、出席重視。

【テキスト】 BピアノソナタHenle Urtext。ロラン：Bの生涯（岩波）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03923	総合科目Ⅱ「人間論」	必	2	4	集中	藤田一美
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 人間学的存在論における芸術の問題

【講義内容】 本講義は、これまで存在論的エートス論と存在論的範疇論を二つの必須の契機とする存在論としての哲学を基本的な枠組みとしている。これまでこの枠組みの中で、言葉、象徴、芸術、文化、歴史、世界の問題を論じてきた。とくにここ数年は、存在と意味というテーマの下に、存在論の本質主義的世界観、形而上学的目的論、神学的世界観、実存主義的世界観、ニヒリズム、ポストモダンの問題を考えてきた。本年度は多元的文化の心理と論理を考えてつづき、この一種閉塞的状况にあるポスト・ポストモダン文化を、＜人間学的存在論＞の見地から考察し直し、あらためて＜存在論的目的論＞を＜相応的存在論＞として提唱する。芸術はそのことを考える場であり、またこのような存在論において芸術を考察することが＜芸術的存在論＞ともなる。

【講義計画】 授業形態は講義であり、しかも集中講義であるので、なるべく一方的にならないよう、質疑応答をまじえながら自由な雰囲気でものごとを考える場としたい。参加者にはそれぞれの関心から、何か文化や芸術あるいは歴史に関わる書物を予め読んで、問題意識を喚起して欲しい。積極的な参加を期待する。

【評価方法】 評価のポイント

- ・質疑応答への参加
- ・小試験（少なくとも、一度は行う）
- ・レポート提出（自由か必須かは未定）
- ・出席

【テキスト】 参考書1)哲学の回廊（学術図書出版社）
2)芸術の存在論（多賀出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03931 } 03933	体育実技Ⅱ	必	2	各 $\frac{2}{3}$	半期	岩見恒典 三浦修史 中路恭平 寺田恭昭 榎本鐘司 松岡敏恵 他
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 体育実技Ⅱとして開講される各種スポーツは、運動技術学習、生涯スポーツ、スポーツコミュニケーション、健康・フィットネス等々の主たるねらいを持っている。前期第1回の授業日に行われるガイダンスを参考に、自己のニーズに即した種目を選択してほしい。

【講義計画】

1. 1種目を前期または後期のいずれか半期間履修する。
2. 前期第1週に種目選択をおこなう。これに出席した履修者が種目選択上の第1の優先権を持つ。教材としてとりあげる種目は時限によって異なるが、総じて以下のようなものである。
アクアティックスポーツ、スケート、アーチェリー、卓球、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、剣道
3. 上記の種目に加えて、集中として登山キャンピングコースが設けられる。
登山キャンピングは、長野県白馬岳周辺を中心に、7月末から8月初旬の3泊4日、定員40名で実施される。ただし、このコースは実技Ⅲの履修者と合同で実施されるため、実技Ⅲとしての履修者が優先される。実技Ⅱとしての履修は定員に余裕のある分のみ、体育実技Ⅱの前期授業開始の第1週の種目選択時において希望者をうけつけるものとする。なお詳細は第1週のガイダンスに配布される別紙実施要項を参照のこと。
4. 要医療者のためのコースは別に設けられる。第1週の種目選択の際に申し出ること。

【評価方法】 評価は出席を重視し、8割の出席に満たない場合には、一律に不合格となる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03941 03958	キリスト教思想II	必	3	各2	前 後 期	青 山 玄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 現代人とキリスト道

【講義内容】 本講義は、20世紀のカトリック教会が、その強力な世界的組織を十分に活用しつつ、あらゆる努力を傾けたにもかかわらず、その高貴な伝統と成果が、強大な現代社会と現代文明の潮流によって次々と崩され、押し流される現実の直視と反省から、キリスト教本来の姿を改めて究明し、その日本の展開による現代化の道を模索することを、意図するものである。

【講義計画】 講義は、次の順序で勧められる：
 ①現代社会とその根本的特徴。
 ②現代社会の動向に対するカトリック教会の対応。
 ——歴代ローマ教皇の施策を中心として——
 ③聖書から伺い知られるキリスト道と新約の教会像。
 ④キリスト教の西洋的發展。
 ⑤西洋文化と日本文化の基本的相違点。
 ⑥クリスチャンたちの信仰生活。
 ⑦クリスチャン信仰生活の現代的意義。

【評価方法】 採点は学期末の筆記試験によってなされるが、出席日数と受講態度も重視する。

【テキスト】 教材プリントは講義の度毎に出席受講者に配布される。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03942 03959	キリスト教思想II	必	3	各2	前 後 期	J. Van Bragt
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 日本の諸宗教とキリスト教

【講義内容】 キリスト教の要点を、日本の諸宗教の教理との比較の上で説明する。
 日本人の宗教心の特徴とは何か。宗教学的立場からそれを探究してから、その宗教心やその中に含まれている考え方と、キリスト教との共通点や相違点を調べる。
 主として次のところにおいて研究していく。
 —キリスト教の神—仏教の法—神道の神々
 —イエズス・キリスト—釈尊・アミダ如来・親鸞…
 —キリスト教、仏教、神道の人生観
 —キリスト教、仏教、儒教の倫理

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03943	キリスト教思想II	必	3	2	前 期	大 森 正 樹
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 イコンを通してキリスト教を学ぶ

【講義内容】 西方教会とやや趣きを異にする東方教会の宝は、霊性とイコン（キリストや聖人をテンペラで板に描いたもの）である。このイコンを学びながら、キリスト教の意味やメッセージを新たに認識することが目的である。

【講義計画】 そのために
 ①東方教会とは何か
 ②東方教会と西方教会の関係
 ③イコンとは何か（総論）
 ④イコンを見る（各論）
 ⑤キリスト教の特質とそのメッセージ
 という予定で授業を進めていく。イコンについては本や可能ならばスライドなどを用いて観ていき
 たい。各自が積極的に西洋美術に関する本を読み、またキリスト教への興味を喚起させることを期
 待する。キリスト教が生き生きとした宗教であることを察知してもらえれば幸いである。

【評価方法】 出席状況と試験内容から総合的に評価する。

【テキスト】 特に用いない。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03944 03961	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	長倉久子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 憧憬と神

【講義内容】 人間はつねに何かに憧れ、憧憬の中で日々を過ごしている。ところで憧憬とは何なのであろうか。それはどのようにして生まれるのであろうか。人は様々なものを憧れの対象としているが、それらのもの間にはどのような連がりがあるのだろうか。人間本性の根底にある宗教性の問題を憧憬という観点から考えてみよう。

【講義計画】 人間本性に根差すものとして憧憬のテーマは哲学や宗教思想で古くから取り扱われてきたが、それはまた文学的作品としても美しく表現されてきた。授業では前半で哲学者や宗教思想かによる「憧憬」を巡る思索をいくつか紹介し、後半でいくつかの詩を取り上げて、憧憬がどのように神と関わっているかを考えてみる。

【評価方法】 試験と出席率、場合によってはレポート

【テキスト】 随時プリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03945 03962	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	石黒秀嗣
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 キリスト教的『人間の尊厳』について

【講義内容】 人類史上嘗てない情報化・国際化の時代を迎え、世界観や価値観の多様化が進む中で、自らの在り方が常に問われている。その問いは「個人」から出発して「人間」という次元に高められ、人間としてどうあるべきか・どうすべきかという哲学的・倫理的問題へと展開するのである。科学と共にすすめられてきた近代化の歴史の流れは、人類に嘗て経験したことのない深刻な問題（地球環境問題や尊厳死など）を投げ掛けている。

そこで問われているのは機内的な価値観に立った従来の意思決定システムについての反省であり、人間が常に求めてきた“人間と自然”についての理解と係わり方が再び問題となる。本講義では、現代社会が抱えている諸問題に検討を加え、キリスト教的『人間の尊厳』について考察する。

【講義計画】 まず『人間の尊厳』の問題が歴史の中でどのように展開してきたのかを検討する。

その上に立って、現代社会の抱える諸問題（地球環境問題や尊厳死など）について検討を加えたい。しかしただデータの分析とシミュレーションで終始するのではなく、キリスト教的『人間の尊厳』の立場にたつてどうあるべきか・どうすべきかという一つの正しい方向を求め考察する。

【評価方法】 基本的には試験による評価。しかし受講態度や出席なども考慮にいれ総合的に評価をする。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03946 03963	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	蒔 苗 暢 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 現代世界と教会

【講義内容】 公会議の歴史を、教義の確立、その哲学的背景という観点から概観し、第二ヴァティカン公会議の位置付けを行い、そこにおいて承認され、公布された検証、宣言及びその後公にされた回勅その他の諸決定を手掛かりに、現代世界のかかえる諸問題等々について、教会はどのように考え、何を期待し、何をなしているかを考察する。

【講義計画】 下記の順に従って進められる。
 ①公会議とは何か（言語的、法的、神学的意味）
 ②教会におけるヒエラルキー
 ③公会議の歴史における第二ヴァティカン公会議の位置付け
 ④「啓示憲章」にみられる第二ヴァティカン公会議の特徴
 ⑤「現代世界憲章」等に見られる、無神論、婚姻と家庭等に関する教会の考え方

【評価方法】 出席状況と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 （参考文献）南山大学監修『第二バチカン公会議文書解説叢書』、『第二バチカン公会議文書全集』（中央出版社）。デンツィンガー『カトリック教会文書資料集』（エンデルレ書店）。『カトリック新教会法典』（有斐閣）。その他随時プリント配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03947 03964	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	M. Calmano
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「教育・真理・自由」

【講義内容】 「人間の自由」は昔から宗教・哲学の論点になっているだけではなく、教育の実践的な問題にもなっている。「自由」についてのいくつかの具体的な問題（「強制のない自由?」、「自由・民主主義・教育」、「自由の経済的な基盤」、「自由と宗教」、「自由と伝統」、「自由と科学」、「自由と心理学」、「自由と権力」）を検討した後、二人の教育学者（P.Freire,I.Illich）の教育理論から窺われる自由観と、旧約・新約聖書に基づくキリスト教的人間観に含まれている「人間の自由」を紹介する。
 なお、英語の文章を含む資料集を使うが、講義は日本語で行う。

【講義計画】 最初の授業で配布するプリントの順に従って講義をするが、履修者からの感想文やアンケートをプリントにし、講義の題材として使うこともある。

【評価方法】 学期末試験はマークシートを使うテストと、論述形式の問題とがあるが、資料集と講義内容をカバーするマークシートのテストは、合格ラインの最低基準として、重視される。

【テキスト】 最初の授業の際に資料集を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03948 03965	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	森 茂 也
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 カトリック社会論－働くことについて－

【講義内容】 本講義は、労働組合運動を提起したことで一般にも知られる教皇レオ13世の回勅『レールム・ノヴァールム』（1891年）以来の歴代教皇の「社会回勅」にみられる社会教説の検討を通じ、キリスト教人間観、特にキリスト教労働観、若しくは「働くこと」について考察する。

【講義計画】 最初の段階で、いわゆる社会回勅（資料配布）の歴史、回勅の読み方を講じ、ついでカトリック社会論の概説を説明する。この枠組みの中で、具体的には、教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『働くことについて』を受講者と共に研究する。

講義はむしろ演習形式とし文献を最初から最後まで、ていねいに読むことに意義を求め、毎時間順番に文節毎に受講者に音読してもらい、それを解説する形で授業を進める。

この回勅は、第1章序、第2章働くことと人間、第3章歴史の現段階での労働と資本の闘争、第4章労働者の権利、第5章働くことの霊性を求めて、で構成される。

【評価方法】 1)評価は筆記試験が中心。試験はテキスト参照可とする。
2)出席を重視し、出席点を考慮する。
3)書評および／または感想文（リスト配布）提出者には、一定の点数を加える。

【テキスト】 沢田和夫訳、教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『働くことについて』（カトリック中央協議会、1982）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03949 03966	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	M. Seigel
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 キリスト教の社会倫理

【講義内容】 本講座は人生に関する、又、人間社会に関するキリスト教的価値基準の紹介とその価値基準の観点から現代社会を見つめる目を育成することを目指すものである。講座の前半はキリスト教の人間像・社会像とその価値基準に注目し、後半は現代世界の様々の状況や問題を取り扱う。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
授業参加とレポート作成を要求する。レポートは授業で示されるキリスト教的価値基準に基づいて、現代社会の状況や問題を分析することである。

【評価方法】 授業出席、授業での積極的参加（質問など）、レポートから総合的に評価する。

【テキスト】 M. シーゲル著「聖書がみる現代」ヨルダン社、1994

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03950	キリスト教思想II	必	3	2	前期	渡 邊 頼 純
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 〔キリスト教における「愛」のメッセージ〕

【講義内容】 現代を生きる私たちにとって最も切実な問題は「愛」ではないでしょうか。友だちや恋人どうし、

結婚してからの未婚の愛や子供への愛など、人生のあらゆる段階で絶えず問われ続けるテーマとしてこの「愛」の問題があるような気がします。生きることと密接に関連した「愛」についてキリスト教はどのようなメッセージを私たちに送って来ているのでしょうか。

本講義では「愛」について学生諸君と一緒に考え、「愛」についてのsensitivityを磨きたいと思えます。前期には百瀬文晃『キリスト教に問う、65のQ&A』（女子パウロ会、1992年）を用いてキリスト教の概観を把握し、後期により具体的にエロスとアガペー、愛とセックスの問題等に取り組んでみたいと考えています。

参考文献：ペトロ・ネメシュギ、『キリスト教とは何か』（女子パウロ会、1991年）
 千葉茂樹編著『マザー・テレサとその世界』（女子パウロ会、1990年）
 W.エヴァレット、『生きること愛すること』（講談社現代新書503、1978年）
 ハビエル・ガルダ、『自己愛と献身』（講談社現代新書1124、1992年）
 粟本昭夫、『結婚する二人へ』（女子パウロ会、1993年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03951 03968	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	村越好男
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 愛の教えと経済生活

【講義内容】 「人はパンのみに生きるにあらず」（マタイ4：4）とは聖書にある名言である。確かに人はパンなしでは生きていけないとしても、<よく生きる>という基本文脈に置かれた時に経済生活はその意味を十分に発揮しうるのである。そこで、愛の教え、特に「人間の尊厳のために」という視点から、<よく生きる>ための人間学理解と具体的指針の提示という経済倫理的対応との関連性を考察してゆく。

【講義計画】 そのため、ユダヤ教（旧約の民）、イエスの愛の教え、アリストテレスの哲学的人間学、トマス・アクィナスの神学的人間学、そしてアダム・スミスの道徳哲学においてどのように展開されているのかを授業の形で紹介してゆく。人間学の枠組みの比較を通して、それぞれにおいて、宗教（神学）、倫理的指針、経済理解がどのように、人間のあり方の理想と結びつけられているかに焦点があてられてゆく。

【評価方法】 講義で紹介した主題の内どれかを選び、授業で示す参考文献を用いて作成したレポートの評価による。

【テキスト】 野尻武敏『人間社会の基礎』（晃洋書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03952 03969	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	保呂篤彦
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト教の人間理解と倫理

【講義内容】 人間とは、したがって私とはどのような存在であるか。この間に対していかなる答えを提出するかによって、私たちの生き方は大きく違って来るであろう。この講義では、この間に対するキリスト教からの答、すなわちキリスト教の人間理解を取り上げ、現代の合理主義的な人間理解や仏教などの他宗教の人間理解との対比で考察するとともに、現代の倫理的諸問題との取り組みにおいて、これがいかなる意味をもちうるかを検討する。またこのような様々な人間理解の検討を通して、受講者それぞれが上の問題を自ら考える契機を提供したい。

【講義計画】 (1)まず現代倫理学の諸問題をと諸理論のいくつかを取り上げ、その基礎にある合理主義的人間理解を抽出する。(2)次にそれとの対比でキリスト教の人間理解－イエスとパウロを考察する。(3)さらにこれを諸々の神話に含まれる人間理解や仏教の人間理解と比較し、それらが共有すると思われる宗教的人間理解を抽出するとともに、それぞれの独自性をもまた明らかにする。(4)その上で「安楽死・尊厳死」問題などの現代的な倫理問題の考察に対して宗教、とりわけキリスト教の人間

理解がいかなる意味をもちうるかを考察する。またこれら諸々の人間理解を受講者がどう考えるか、受講者自身人間をどのような存在と考えるかについて、学期途中で少なくとも一度短いレポートを提出してもらい、それをもとにした議論のための時間を設ける予定である。

【評価方法】 学期末に実施する筆記試験と上述のレポートおよび議論における発言等から総合的に評価する。

【評価方法】 以下の書物を参考文献とする。
八木誠一『イエス』1968年 清水書院。
八木誠一『パウロ・親鸞・イエス・禅』1983年 法蔵館。なお、その他必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03953 03970	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	C. Pavón
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 VALORES HUMANOS – VALORES CRISTIANOS

【講義内容】 La sociedad actual, en la que todos estamos inmersos, no favorece el desarrollo de los mejores valores de la persona humana. Pero aún viviendo en medio de esta sociedad podemos tratar de descubrir qué nos dicen palabras como “amor”, “amistad”, “acogida”, “solidaridad”, “lealtad”, etc. Tomaremos como guía los valores que Jesús nos propone en el Evangelio.

【講義計画】 Cada día de clase, un/a estudiante se encargará de presentar un tema, sobre el que habrá debate. Todos deberán prepararlo también, aportar sus ideas y participar activamente.

【評価方法】 Se tendrá en cuenta la preparación de la clase, la participación en ella y los reportajes que se pedirán a lo largo del año.

【テキスト】 Revista “Imágenes de fe”, número 229 y Nuevo Testamento

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03954 03971	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	久 松 英 二
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 聖書の人間像

【講義内容】 キリスト教の経典である聖書は、抹香臭く、時代遅れの「ありがたい」説教の書ではない。そこには醜さと悲惨、美と高貴一切を含めた生々しい人間の性（さが）をえぐり出すドラマが展開しているのである。本講では、聖書を単なるキリストの「教科書」としてではなく、今を生きる我々の心に問いかけ、訴える現代性と魅力を持った人間ドラマの書として扱い、そこに見られる人間像を浮き彫りにしたい。

【講義計画】 1. 聖書に関する一般的情報の提供。
2. 旧約聖書に登場する主な人物を取り上げ、そこに見られる人間理解を探る。
3. 新約聖書に登場する主な人物を取り上げ、そこに見られる人間理解を探る。
4. 総括。

【評価方法】 筆記試験の結果および出席状況から評価する。

【テキスト】 聖書（できれば、新共同訳の旧約と新約がセットになったもの）。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03955 03972	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	木下 登
他の科目との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【副題】 イスラーム・スペイン思想における人間観

【講義内容】 近年我が国においてもイスラーム世界への関心が富に高まってきている。しかしその主眼は中東諸国に注がれており、8世紀以降800年間にわたりイスラーム世界と西欧世界の接点として重要な役割を果たしたイスラーム・スペインに関しては未だ情報は限られている。本講では、イブン・マサーラを始めとして、アヴェロエスに至るイスラームの思想家たちを取りあげ、イスラームと西欧両世界の「掛け橋」としてイスラーム・スペインが果たした役割の一端を解明することを目的とする。

【講義計画】

1. イスラーム世界の拡大
2. イブン・マサーラ (10c.)
3. イブン・ハズム・デ・コルドバ (11c.)
4. イブン・アラビー (12c.)
5. アヴェロエス (12c.)
6. イベリア半島における翻訳業
7. 信仰と理性について

【評価方法】 レポートと筆記試験

【テキスト】 M.ワット『イスラーム・スペイン哲学』（岩波書店）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03956 03957	キリスト教思想II	必	3	各2	前期	P. LaForge
他の科目との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【講義内容】 [Foundations of Business Ethics]

The purpose of the course is to apply traditional Christian principles to modern business ethics. This will be accomplished through a number of class activities, for example, small group discussions. Reflection on these exercises will lead to an understanding of Christianity as operative in the modern business world. The class will be conducted only in English.

1. An introduction to NonDiscursive and Discursive Meditation.
2. Breathing Exercises and Focusing.
3. Bible Study.
4. Educational, Business, Marriage Contracts.
5. The social dimension of business ethics.

【評価方法】 The Marking System is as follows:
 -Attitude in class
 -Attendance
 -Reports
 -The possibility of an examination

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03960	キリスト教思想II	必	3	2	後期	大 森 正 樹
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 キリスト教神秘思想の探求

【講義内容】 最近では占いやオカルトなどが流行っているが、本当の神秘思想とは何かを探ってみたい。とりわけキリスト教の初期に活躍した教父たちや、その伝統を受け継ぐ東方教会の神秘思想を概観し、あわせて西方教会の神秘思想にも触れてみたい。(時間があればユダヤ教神秘思想にも言及したい。)

【講義計画】 そのために
 ①神秘思想の姿(占いは神秘思想?)
 ②キリスト教神秘思想とは
 ③東方教会と西方教会
 ④東方教会の神秘思想
 ⑤西方教会の神秘思想
 ⑥ユダヤ教の神秘思想
 といった内容で授業を進めてゆきたい。講義形式で行うが、受講者自身が問い、考え、答える姿勢を貫いてほしい。質問は歓迎する。神秘思想が我々の生きる原動力になることを探りたいと思う。

【評価方法】 出席状況と試験内容から総合的に評価する。

【テキスト】 特に用いない。必要ときはプリント配布をする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03973 03974	キリスト教思想II	必	3	各2	前期 後期	浜 口 吉 隆
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 生命倫理と宗教

【講義内容】 キリスト教的生命観に基づいて、現代の生命科学によって提示されている諸問題を取り扱う。すなわち人間生命の尊厳思想を生命操作(人工授精、人工的延命、安楽死など)との接点を求め、生命に対する責任の倫理について講述する。

【評価方法】 筆記試験ないしレポートの結果、講義への参加姿勢などから総合的に判断する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03975 03976	キリスト教思想II(再) 1・2	必	4	各2	前期 後期	石 脇 慶 總
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 共同体徳論：副音の信仰の実践としての共同体倫理

【講義内容】 イエスの副音の信仰が、単なる観念的なイデオロギーではない以上、それは、吾々の日常生活の中で、吾々を生かすはずである。人間の生活は、基本的に共同体的である。孤立した個人のための「救い」は考えられない。人間は、共同体として救われ、若しくは、救われない。それ故、吾々は、人間共同体を単に個人倫理の「場」として捉えるだけでなく、更に積極的に倫理の主体そのものとして捉え、それが、倫理的に「善」であるためにはどのような条件が必要であるか、などを探求する。受講者による討論を受講条件とする。

【講義計画】 全期間の約3分の2は、基礎概念に関する講義を行い、残り時間を利用して具体的な問題について受講者の見解を発表させる。

【評価方法】 発言内容、レポート若しくは、筆記試験および出席を総合的に評価する。データの記憶度よりも、判断力の形成を重視する。

【テキスト】 特に定めない。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03981 } 03986	体育実技Ⅲ	随	2~4	各1	半期中	岩見恒典 三浦修 中路恭 寺田邦 榎本鐘 松岡敏 恵他
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【講義内容】 体育実技Ⅰをすでに修得している学生は、体育実技Ⅱとして開講される種目および野外コースとして開講される種目を、体育実技Ⅲとして履修できる。

【講義計画】

1. 種目はあらかじめ提示されるのでその一覧表を教務課窓口で受けとり、希望する種目を記入して教務課に提出すること。
2. 後期の種目を希望した場合にも、前期第1週のガイダンスに出席しなければならない。この出席をもって履修が認められる。
3. 開講予定の種目は以下のようである。
アクアティックスポーツ、スケート、アーチェリー、卓球、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、剣道
4. 上記の種目に加えて、集中のコースが設けられる。
*登山キャンピング
登山キャンピングは、長野県白馬岳周辺を中心に、7月末から8月初旬の3泊4日、定員40名で実施される。詳細は教務課窓口にて配布される実施要項を参照し、受講申し込みの手続きをすること。
*スキー
スキー実習は、長野県つがいけ高原スキー場において、2月上旬、4泊5日で実施されるが、これに加えて学内実習が予定されている。定員は30名であり、登録者が多数の場合には初心者および3・4年生を優先する。詳細は教務課窓口にて配布される実施要項を参照し、受講申し込みの手続きをすること。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04001 } 04154	英語Ⅰ・Ⅱ総合		1	各1	前期後期	
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【講義内容】 These two courses provide the new incoming student with an introduction to communication in English in all four skills: listening, speaking, reading, writing. The emphasis in the course is on real communication: actually using English in the classroom to accomplish various tasks and assignments. The goal of instruction is to provide the student with an opportunity to develop their proficiency in English and to provide instruction in the study skills necessary to enable the students to continue their own study outside of the classroom on an individual basis.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities differ with the interests and abilities of

each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide an explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of the each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04161 } 04277	英語Ⅲ・Ⅳ総合		2	各1	前期 後期	
他の科目との関連	英語Ⅰ・Ⅱ総合の単位を既得のものに限る。			他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 These two courses provide the student with an advanced course in English communication. The courses are designed to help the student develop proficiency in each of the four language skills: listening, speaking, reading and writing. The course builds on the foundation provided by Integrated English I & II and attempts to bring the students to a proficiency level sufficient for them to take advantage of the many opportunities for going abroad, for both pleasure and study.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities will differ with the interests and abilities of each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide an explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of the each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04301 } 04436	英語Ⅰ・Ⅱリーディング		1	各1	前期 後期	
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 パラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04351 } 04354 04421 } 04424	英語Ⅰ・Ⅱリーディング〔英米科用〕	必	1	各1	前期 後期	
他の科目との関連					他学科 履修	不可 重複 履修

【講義内容】 Students will be introduced to reading strategies intended to improve reading comprehension and the variation of a wide variety of international native level texts in English. The reading materials will also help prepare them for texts and tasks they may encounter in English speaking environments. Vocabulary acquisition skills will be reviewed, and by the end of the course the students should be able to read a wide range of texts with a reduced dependence on a dictionary, and a significantly improved rate and level of comprehension.

【講義計画】 The SRA reading methodology will be used to improve the reading strategy of the learners so that they may develop and notice a real improvement in their reading skills. A placement test will assess each student's particular reading level and will be used to indicate how this level may be improved. The course will also serve as a preparation for the more advanced academic reading demands of Reading III and IV.

【評価方法】 The final grade will be based on a continuous assessment of the student's work and effort in class and the grades achieved on assignments and tests throughout the course.

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04451 } 04547	英語Ⅲ・Ⅳリーディング		2	各1	前期 後期	
他の科目との関連					他学科 履修	重複 履修

【講義内容】 高度な英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダー、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04601 04611	英作文Ⅰa・Ⅱa〔英文科生用〕	必	1	各1	前期 後期	玉崎 孫治
他の科目との関連					他学科 履修	不可 重複 履修

【副題】 パラグラフの構造

【講義内容】 パラグラフ・ライティングの訓練を目的とする。英文の段落ごとの構造を研究し、段落単位の作文に習熟することは、英文による発表能力ばかりでなく、英文のリーディングの増強にも大きなプラスとなる。文単位の英作文では注意が行き届かない段落（パラグラフ）の構造を学ぶことを主な目的とする。

【講義計画】 コンピュータをフルに利用して、いろいろな英文の段落構成法を暗記や練習問題をまじえながら検討させ、毎時間段落作文を宿題として課す。提出した宿題は添削返却を旨とし、翌週3編ほどピックアップしてコンピュータのスクリーンに提示し、クラス全員で注釈・検討を加え、それを修正させて再提出させる。なお後期にはスクリーンに読み出した小エッセイを読ませ、同時内に大意を書かせる訓練を加える。宿題の提出もコンピュータを利用して、プリント・アウトのみならずフロッピー・ディスクで行わせるので、自分のパソコンを持つことを薦める。

【評価方法】 クラス内での活動、宿題、定期試験で行う。出席重視。

【テキスト】 コンピュータによる資料（ファイル）。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
04602	英作文 I b [英文科生用]	必	1	1	前期	鈴木達也	
他の科目との関連					他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 「パラグラフ」の構造

【講義内容】 コンピュータを用いて多くの英文を実際に書き換えながら、パラグラフの概念を徹底的に学ぶことにする。授業の性格上、コンピューターを多用するので、個人用にパソコンを所有することが望ましい。

【テキスト】 使用しない。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
04603 04613	英作文 I c・II c [英文科生用]	必	1	各1	前期 後期	山崎勉	
他の科目との関連					他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 文章構成法、基本的な語・句の使用法を習得してもらうための練習を行う。

【講義計画】 ①テープを聴いてその内容を要約してもらう。
②毎回、ひとつないしふたつの異なった表現を使って、応用練習をしてもらう。
③グループ毎に物語を執筆してもらう。
以上のような内容の授業になろう。

【評価方法】 筆記試験と平常点による総合的評価。

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
04612	英作文 II b [英文科生用]	必	1	1	後期	鈴木孝夫	
他の科目との関連					他学科履修	不可	重複履修 不可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04621 04622 04631 04632	Freshman English I 1 a・1 b〔英文科生用〕 Freshman English II 1 a・1 b〔英文科生用〕	必	1	各3	前 期 後 期	D. Mayer
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】

In this course students move from a passive knowledge of English vocabulary and grammar to active use of the language in speaking and hearing. Half of the class is devoted to activities which involve speaking; the other half of the class is spent in the Language Laboratory for activities which concentrate on listening. In addition there are four novels for extended reading and vocabulary building; twice weekly letter writing to focus on grammar and vocabulary needed in the warmup section of the class; printed impressions of the novels, inclass letter exchange and discussion via computer, and introduction to various selfhelp computer programs such as a vocabulary builder and a speed reader. Since the computer instructions are given in English, this period becomes a reallife situational use of English.

【講義計画】

The course meets three times a week. Once a week in the computer room; twice a week in a classroom with audio/visual equipment. There may be slight variations according to teachers, however, in general, once the textbook instruction starts, there is the following pattern.

1. Warmup. As soon as students enter the room they speak in English about any topic of their choice.
2. Roll call. Checking whether the letters were written. A student leads a cheer or the teacher engages some students with a few remarks.
3. Work in pairs or in groups of three and four:
 - a. Learning the nouns and adjectives concerning the topic of the chapter.
 - b. Learning the verbs and words expressing process.
 - c. The teacher gives an example of what to say in the activity.
 - d. The students tell the teacher what to do or practice a similar activity.
 - e. Review of the vocabulary through a short listening section.
 - f. Review of the vocabulary through a game.
 - g. Practice of saying the process in pairs.
 - h. Acting out the process in a role play.
4. Game or some communicative activity related to the chapter.
5. Reflection.

【評価方法】

Although there is written work in the course, the examinations are oral. To pass the course a student must show a certain ability in the LL, be active in the class, and be able to carry on a conversation or to reply to questions given in English. To speak or not to speak; to understand spoken English or not to understand. The course is basically pass/fail. However, extra credit is given for higher LL scores, evidence of trying, and volunteering to use English in a public situation.

【テキスト】

Mayer, Roberson, and Doki. From Babble to Broadway. Eichosha.
Milward, Peter. A Shorter Course in Easy English Poems. Nanundo.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04623 04624 04633 04634	Freshman English I 2 a・2 b〔英文科生用〕 Freshman English II 2 a・2 b〔英文科生用〕	必	1	各3	前 期 後 期	W. Purcell
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04701 } 04704 04716 04721 } 04724 04736	英語Ⅰ・Ⅱオーラルコミュニケーション 〔英米科・日本語学科用〕	必	1	各3	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履修	不可	重複 履修 不可

【講義内容】 The goals of OCI/II are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OCI/II activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

(LL) In each 90 minute OCI/II class, 45 minutes will be spent in the language laboratory with the emphasis on various aspects of listening comprehension and pronunciation using commercially prepared listening and video courses as well as actual television broadcasts.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Regular language laboratory tests and listening tests are given throughout the year. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and progress made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers. Homework and preparation are required for most classes and students can expect to spend about two hours outside of OCI/II for homework per week.

Tests, homework and attendance in the LL are combined with results in OCI/II to determine the course grade.

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04711 04712 04731 04732	英語Ⅰ・Ⅱオーラルコミュニケーション 〔イスペインヤ科用〕	必	1	各3	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履修	不可	重複 履修 不可

【講義内容】 The goals of OCI/II are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal (one to one) interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OCI/II activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and steady progress

made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers.

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04801) 04812	英語 I・IIライティング		1	1	前期 後期	森 あおい 堀 部 充
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 効果的なパラグラフ(PARAGRAPH)を書くことを主たる目標とする。パラグラフは自分の考えや気持ちを表現するための最も基本的な単位である。PARAGRAPH WRITINGを習得することによって、ESSAY WRITINGにつなげたい。

【講義計画】 PARAGRAPHの概念(Central idea, Topic sentence, Supporting details等)と展開法(Details, Examples, Classification, Definition, Comparison/Contrast, Cause/Effect, Process, 等)を実例によって学び、それに基づいてPARAGRAPHを書く訓練をする。英語で表現するためには英語を読むことが重要であるから、かなりの量のリーディングが課されるであろう。またPARAGRAPHを構成する要素は文(SEENTENCE)であるから、正確な文を書くために語法、イデオムの習得も要求されるであろう。

【評価方法】 課題、小テスト、期末試験、出席等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04821) 04832	英語 I・II音声表現		1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ビデオ、テープなどを多用して英語の音声表現の理解を深める。また、重要な表現を適切な状況で使用できるよう訓練する。

【講義計画】 LL教室を使用し、毎回多量の音声表現に触れる。課外に英米の映画を観たり、英語のテレビニュースを聴くなど、積極的に英語の音声表現になれ親しむことが期待されている。

【評価方法】 出席重視。(積極的なクラス参加を期待する。)

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04842) 04854	英語 I・IIアドヴァンストリーディング			各1	前期 後期	
他の科目 との関連	英語 I・IIリーディングを既修、又は履修中であることが望ましい。			他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 やや難しい英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04861 04872	英語 I・II 会話			2	前期 後期	
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 This course will concentrate on developing student's speaking and listening ability through the use of communicative activities. An important focus will be on vocabulary, especially words, phrases, and structures used to describe important thought, feelings, and events and experiences. Some classes will include discussion and/or problem solving activities. Students will be expected to work together in pairs or small groups.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04901 04904	英語 I (会話) A～D [経営・国際コース]	必	1	各4	通年	J. Mainland 他
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 These courses emphasize improving students' self-confidence, fluency, and accuracy in English speaking and listening skills. Activities may include pair and small group discussions, interviews, role plays, audiotape and video activities, and TOEFL review as needed. Topics tend to be more general, from daily life and the current news, for example. Homework is required.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
04911 04914	英語 II (会話) [経営・国際コース]	必	2	各4	通年	J. Mainland 他
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 These courses emphasize increasing students' speaking and listening skills when dealing with more advanced topics in daily life, the news, and business world. In addition to pair and group discussions, activities may include more formal work, such as speeches, presentations, debates, and activities to prepare students for study abroad in their Junior year, such as lecture notetaking skills. Audiotape and video activities:

may also be used. Homework is required.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04921 04922	基礎英語Ⅰ・Ⅱ〔経営・国際コース〕	選・必	1	4	通 年	P. LaForge P. Binford
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修

【副 題】 Basic English

【講義内容】 The purpose of this course is to practice the four basic English skills: Speaking, Listening, Reading, and Writing. English speaking will be practiced in pair, small, and large groups. Video and audio equipment will be used to help students improve listening skills. Reading and Writing skills will be cultivated through TOEFL preparation and class reports. Reflection on all these activities will lead to an improvement in basic English skills. Since a minimum of homework will be assigned, active participation in class activities is expected of all students.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04931 04943	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ		1・2	2	通 年	T. Sato 他
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修

【講義内容】 [English Conversation 1]

These courses are for students who want to practice listening and speaking skills. Activities may include the following: group discussions of various topics, discussion of short reading passages or articles, interviews, role plays, impromptu speeches, short formal speeches, question and answer practice, listening to audio tapes, watching and responding to video tapes, oral practice drills, short written exercises, etc. Some homework is required.

[English Conversation 2]
See description for English Conversation 1

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:
 - Written Examination
 - Oral Examination
 - Oral Report(s)
 - Written Report(s)
 - The use of reference materials is possible.
 - Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
 - Other methods of evaluation to be decided by each teacher.

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher.

フランス語

フランス料理、フランス映画、フランス絵画、フランス文学、ファッション、シャンソンなどを通じて私たち日本人にも身近なフランス語は、フランス本国以外にカナダ、ベルギー、スイスほかアフリカ諸国など全部で三十数か国において用いられる有力な国際語の一つです。

フランス語を第一外国語として学ぶ場合は、おもに視聴覚教育方式により、フランス人と日本人の教師がタイアップして教え、ことばの生きた運用力（聴く、話す、読む、書くの四技能）を体系的に身につけることを目的としています。

第二外国語としてフランス語を選択する場合には、伝統文法の優れて分析的な方法を用いて、文献読解、情報収集、実務などにも役立つような語学力の習得を目指します。

具体的な到達目標としては、卒業語も①辞書があれば簡単なフランス文や手紙が読める、②フランス語会話の基礎が得られる、の二点を考えています。

外国語の勉強は、毎日が未知の世界の発見です。ことばを通して私たちは初めてその言葉を使う人々の生活や意見を知ることができます。「知る」ことによって自分の世界が広がっていき喜びを味わってみましょう。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05101 } 05291	フランス語Ⅰ・Ⅱ	—	指定なし	各1	前期 後期	栗村道夫 他
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 初心者を対象に、週二回の授業で一年間フランス語を勉強する。到達目標は、「辞書があれば簡単なフランス語の文章が読めるようになる」ことである。

【講義計画】 一年間でおおよそ次のことを学習する。
 ①名詞の性と数②冠詞、③代名詞、④関係代名詞、⑤副詞（比較級、最上級）⑥形容詞（語尾変化・比較級、最上級）、⑦動詞（直接法・命令法・条件法・接続法及び時制）、⑧代名動詞、⑨受動態、⑩現在分詞とジェロンディフ

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05131 05181 05232 05281	フランス語Ⅰ・Ⅱ文法（営） フランス語Ⅰ・Ⅱ講読（営）	選	1	各1	前期 後期	倉田信子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 文法・購読の別なく、一貫して前期は文法だけに専念し、後期は本を読む。文法の授業では毎回小テストを行う。辞書は毎回必ず持参のこと。後期の訳読では小テストは行わない。代りに毎回必ず全員にあたるよう配慮する。

【評価方法】 出席重視。前期では毎回の小テストの結果（＝平常点）と定期試験の総合評価。後期は毎回の訳読の結果（＝平常点）と定期試験の総合評価。

【テキスト】 天羽他編『初級フランス語文法』（朝日出版社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05301 05311	フランス語Ⅲ・Ⅳ文法 〔旧フランス語Ⅱ会話（随）〕	選・随	指定なし	各1	前期 後期	井出 勉
他の科目との関連				他学科 履修		重複 履修

【講義内容】 本講義は、初級文法を一通り終えた、あるいは同程度の語学力を有する学生を対象とする。授業ではテキストの読解を通して、初級文法の完成から中級文法の習得を目指す。したがって、難解な文章を読みこなす読解力の養成のため、授業では文法事項の説明にも十分な時間をさく。

【講義計画】 中級文法の習得のため、
①初級文法の復習
②中級文法の学習
③①と②の習熟のため、中級程度の文章の講読

【評価方法】 定期試験だけでなく、受講態度、出席などにより、総合的に評価する。

【テキスト】 初級文法を終えた段階で読むことができ、中級への橋渡しとなるテキストを選ぶ。

ドイツ語

ドイツ語は英語と同じゲルマン語の仲間です。現在ではドイツ、オーストリア、スイスで日常に使用されています。わが国では特に教養外国語として重要視されてきた長い歴史があります。そのため従来の授業においては読解力の養成に主力を注ぐ傾向があったことは否定できません。

しかし今日のように国際社会の中での文化や産業の相互交流が盛んになってきた時代においては、ドイツ語の授業も単に読む力ばかりでなく、話す力、聞く力の養成にも力を入れなければならなくなってきました。

そのため、本学においては、ドイツ語をまずアクチュアルな外国語として学習できるように、視聴覚教育機器を利用した授業を主体とする方針を取っています。美しいドイツ民謡や歌曲、ビデオなども適宜利用して、できるだけ親しみやすくわかりやすい、楽しいドイツ語の時間にしたいと考えています。

第2外国語としてのドイツ語の時間は第1外国語としてのドイツ語の時間よりずっと少ないので、表現力より理解力の養成の方に重点を置かざるを得ませんが、1年間で基本文法はすべて習得できるようにしてあります。外国語、経済、経営、法学部の希望者には第2年次以降も学習できるようにドイツ語科目が開講されていますので、ぜひそれを利用してほしいと思います。

「外国語を知らない者は自分の国の言葉をも知らない。」とゲーテは言いました。古いゲルマン時代からの精神文化の蓄積の中で養われ発達してきたドイツ語との触れ合いを通して、諸君の日本語に対するセンスを磨かれることを期待しています。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05801 05811	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法〔旧ドイツ語Ⅱ訳読（随）〕	選・随	1～4	各1	前期 後期	加藤 泰史
他の科目との関連				他学科 履修		重複 履修 可

【副題】 Mehr Deutsch!

【講義内容】 テキストにそって「ドイツ事情」に関する文章を読むと同時に、ゲーテ・シラー等の詩（暗唱を含む）や、ヘルダーリン・ニーチェ・アドルフ等の名文やハバーマスの悪文も味わってみる。なお、毎時間ドイツ語文法の基礎知識を再確認する作業を行うつもりである（予定している文章以外で特に読みたい文章があれば申し出ていただきたい）。

【講義計画】 (1)ドイツ語文法の基礎知識の再確認
(2)ゲーテ・シラーの詩やヘルダーリン・ニーチェ・アドルフ・ハバーマス等の文章を読む

(3)テキストの文章理解と練習問題

【評価方法】 授業中の質疑応答・筆記試験の成績等から総合的に評価する。

【テキスト】 『ドイツ語読みかた教室』（三修社）・『ドイツ語自習問題集』（白水社）。その他についてはプリントを配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05821 05831	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ講読〔旧ドイツ語Ⅱ会話（随）〕	選・随	1～4	各1	前期 後期	A. Plum
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 Wir lesen, schreiben und sprechen Deutsch.Machen Sie mit!

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05841 05851	ドイツ語Ⅴ・Ⅵ〔旧上級ドイツ語A（随）〕	選・随	1～4	各1	前期 後期	櫻井健吾
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 近代・現代ドイツの政治・法律・経済・社会に関する学術所の講読。

【テキスト】 （予定）:E.-W. Böckenförde, Recht, Staat, Freiheit. Studien zur Rechtsphilosophie, Staatstheorie und Verfassungsgeschichte, Frankfurt a. M. 1991.（学生の希望を聞いた上で、変更する場合もある）著者は、フライブルク大学教授・ドイツ最高裁判所（憲法裁判所）判事。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05861 05871	ドイツ語Ⅶ・Ⅷ〔旧上級ドイツ語B（随）〕	選・随	1～4	各1	前期 後期	伊藤秋男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 平易なテキストを用いて、速読力とドイツ語の語感が身につくように授業をすすめる。したがって文法には、あまりこだわらない。ドイツ語学習を1年終えただけでも十分習熟できる内容である。

【講義計画】 講読を中心とするので、予習を前提とした出席をもとめる。

【評価方法】 筆記試験の成績と平常の成果から総合的に評価する。

【テキスト】 Der Kleine Prinz（行人社）の予定

スペイン語

スペイン語は、ポルトガル語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語と同じラテン語から発達した言語です。

現在では、スペインはもとより、メキシコ、それにグアテマラからパナマに至る中米の国々、そしてコロンビア、ベネズエラ、アルゼンチン、チリに至る南米の国々で使用されています。中南米諸国との経済面での関係を一層深めていかなければならない日本の立場からすれば、これらの地域で使用されているスペイン語の理解は非常に大切だと言えるでしょう。

スペイン語は、発音が日本語とよく似ており、ローマ字読みするだけで結構相手に通じます。単語も基本1,000語でかなりの会話ができると言われており、語順なども日本語と同様に規則がゆるやかなため、我々日本人にとって最も親しみやすい外国語のひとつと言えましょう。理解力は表現力の基礎となるので一年次では文

法・講読を会話・作文より重視します。一年間みっちり勉強すれば中級程度の読みものならば辞書を片手に読めるだけの理解力、および現地での旅行がなんとかできるだけの表現力を身につけることが可能です。二次以降も随時科目として講読や会話の勉強を続けることができます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06301 06311	スペイン語Ⅲ・Ⅳ講読 〔旧イスパニア語Ⅱ講読(随)〕	選	2~4	2	通 年	芝 修 身
他の科目との関連	一年次にスペイン語を4単位履修しておくこと			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 一年次に習得した文法知識を再確認し、更に深めながら、読解力をつけることを目的とする。最初は易しい読み物から入り、次第に程度を高め、最終的には難度中位のスペイン文を読める力をも身につけたい。学部・学科に関係なく、スペイン語に関心のある学生に積極的に参加してほしい。

【評価方法】 筆記試験とクラスでの予習程度によって評価する。

ポルトガル語

ブラジルポルトガル語とは、ブラジルにおいて使用されているポルトガル語といった意味です。ポルトガル本国のポルトガル語とは、発音や語彙の面で若干の差があっても、本質的には同じですから、単にポルトガル語という人もいます。

いずれの名称を使うにせよ、ブラジルポルトガル語は、スペイン語と同様に、ロマンス系諸語の中の一つであり、スペイン語、フランス語、イタリア語などとは姉妹語の関係にあります。特にスペイン語とは著しく類似し、日本人には比較的学びやすい外国語と言うことができるでしょう。

ポルトガル語は、ブラジルのほか、ポルトガルはもちろんアンゴラ、モザンビーク、などの旧ポルトガル海外領において、公用語になっていますが、ラテン・アメリカ諸国の中でも、特に日本からの進出企業を数百社も受入れているブラジルとの関係を考えるとき将来に対する布石として、ブラジルポルトガル語を勉強しておくことは意味あることと考えられます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06621 06631	ポルトガル語Ⅲ・Ⅳ会話 〔旧ブラジルポルトガル語Ⅱ(随)〕	随	2~4	各1	前 期 後 期	丸 山 め ぐ み
他の科目との関連	ブラジルポルトガル語Ⅰ会話・作文〔全〕をすでに履修していることが望ましい			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 現在ブラジルで使われているポルトガル語を中心に、より高度な会話・作文の習得を目指す。会話については、人の話を聞いて自分の意見を言えるようにする。自分から話しかけることができるようにする。作文については、自己紹介にとどまらず新聞記事やプリントの内容に対する自分の意見などを述べられるようにする。言葉を話すには、自分の中に確かな知識や考え、意見を持っていることが大切です。そういう意味でポルトガル語を通して様々なことを共に学んでいきましょう。

【講義計画】 ビデオを見ること、テープを聞くこと、プリントを読むことを通し、以下のテーマについてポルトガル語で共に学んでいく。

- ①ブラジルの地理
- ②ブラジルの歴史
- ③ブラジルの文化
- ④ブラジルの音楽
- ⑤ブラジルのスポーツ：サッカー、F1など
- ⑥ブラジル・アマゾンの森林
- ⑦ブラジル・パンタナルの自然 他

【評価方法】 平常点、および学期末テストの成績による。出席も重視する。

【テキスト】 プリントを配布する。

中国語

中国には50を越える民族が生活しており多様な言語を使用しています。その中で人口の9割以上を占める漢民族の言語はこれを「漢語」といいます。しかし、広大な中国大陸のことですから、「漢語」と一口にいっても地域差が非常に大きく、漢民族同士でもその方言圏が異なれば意思の疎通は全く不可能といってしまうでしょう。そこでつくり出されたのが標準語です。北京の言葉に基づいたもので、ラジオやテレビ、学校などを通じ全国に普及しています。これを「普通話」といいます。また、「国語」や「華語」などといったりもしますが、台湾や香港、シンガポールなどにおいても標準語は広く用いられています。われわれの学ぶ中国語とはこの標準語なのです。

実際の学習においては、第一に、初歩的な会話の力が備わることを目指します。そして受講性の到達した水準を確認するために、適宜暗唱や聞きとりの考査をおこないます。また、学期途中から、作文や翻訳の小演習をとりいれ、基本的な読解の力の養成をはかります。

ラテン語

ラテン語 LINGUA LANTINA

I. ラテン語のすすめ

ラテン語は西洋古典語ですが、同時に現代欧州諸国語の源流であり、日本では「大学しか学べない広域文化言語」です。教養としてラテン語を学ぶ意義について、ラテン語の例文を使いながら具体的に説明し、履修をすすめておきたいと思えます。

(1). “*Studium linguae latinae est utile descendae linguae anglicae.*” 「ラテン語の勉強は、英語を学ぶために役に立つ」。……すでに6年間、中学・高等学校で学んできた英語ですが、大学でさらにその知識や理解を深めるために、ラテン語の勉強は少なからず役に立つと思います。実は英語は7000語以上の単語をラテン語から受け取り、今もそのまま使っていますが、そのことはあまり知られていないようです。昔、ローマ帝国領土内（アフリカ、欧州全体、東欧諸国）で主要言語として使用されていたラテン語（インド・ヨーロッパ語系の言語）が「親」となり、地方言語と混じり合いながら、「ロマンス語」（Linguae Romanae）といわれる「子どもたち」、つまり、「フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ルーマニア語、レトロマン語」などを生み出しました。したがって、この「親子・姉妹」は顔も形も（言葉も文法も）よく似ているわけです。例えば「学校」という単語一つ取ってみても、一目瞭然です。上記の言語順に、*école*(フ)、*escuela*(ス)、*escola*(ポ)、*escoală*(ル)、*scola*(レ)となり、ゲルマン語系のドイツ語 *schule*、英語 *school* も、みなラテン語 *schola* の「借用語」です。これはギリシャ語 *σχολή* (=skhole、元の意味は、①停止・休息・余暇、②余暇にすること、子どものための勉強や訓練など、③そのための場所としての「学校」など多義にわたる単語)まで語源をたどることができます。またラテン語は、中世の教会や大学を中心に長い間、宗教・神学・哲学・文学・天文学・音楽・教育・法学・医学・生物学など、広範な分野の「専門用語」として用いられてきました。このように現代西欧諸国語の源流、文化の担い手としての、ラテン語は今もなお語学を学ぶ人々にとって、興味の尽きない「すてきな言語」「fantastic language」なのです。

(2). “*HOMINIS DIGNITATI*”……「人間の尊厳のために」。南山大学の教育理念を表すこの横文字は、ラテン語です。英語では、“For Human Dignity”といえます。入社試験の面接で尋ねられた人もいたそうです。卒業までに、南山大学のモットーくらいは、必ず「ラ・英・日」の3か国語で覚えておきましょう。G等ロビーの壁には、その他にも、“*PAX IN ORBE TERRARUM*”「地上に平和あれ」、”*VITAM IMPENDERE VERO*”「真実のために命をかけよ」、”*LEX LIBERTATIS, LEX AMORIS*”「自由の法は、愛の法」など南山大学の教育理念を説明する7つの「ラテン語文」が掲げられていますが、これも授業中に詳しく解説します。

今年度開講のラテン語Ⅰ・Ⅱ（主に文学部神学科・哲学科等対象、定員40名）の教科書には、くわしい基礎知識の習得のため、小林標著『独学者のための、楽しく学ぶラテン語』大学書林1992年（基本文法、練習問題・末尾に語彙索引〔辞書〕付）を新たに採用しました。この本には、「独習者のための」という添え書きが付いているように、各自で勉強できるように工夫されています。また「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」（主に文学部以外対象、定員40名）の教科書には、アモロス著『ラテン語の学び方』南窓社1985年（末尾に「語彙」〔辞書〕、別冊「語尾変化表」付、さらに別売「問題解答集」あり）を使うことにしました。ラテン語は緻密な「語尾変化」をするので、一見、「文法が複雑だな」と思うかもしれませんが。しかし「発音はやさしく」、「Ave Maria」やミサ曲など「グレゴリオ聖歌」（教会音楽）を通して今でも親しまれています。各教科とも、教科書を中心に基礎的な語彙や文法を学びながら、毎回配布するプリント資料によって、日常生活に密着した言葉（たとえば、星座名、四季や12か月の名称、七曜日、時間の単位〔時・分・秒〕の語源、教詞と時間の教え方、ドレミの由来、商品名の由来など）も理解し、今も身近に生きているラテン語を「再発見」することでしょう。

(3). “*Studia adolescentiam alunt, senectuem delectant.*” (Cicero 10643BC) 「勉強は青年を養い、老年を楽ませる」（キケロ）……2000年以上も昔の政治家・雄弁家・著作家キケロのこの言葉のように、ラテン語の勉強はただ単に「学生時代」に語源的な知識や理解を深め興味を増すだけではありません。格言、名言、聖書の言葉、ラテン語の音楽観賞などに自ら身につけた豊かな教養をもとにして、将来、社会人として、さらには熟年期を迎えても、きっと豊かで楽しい日々を過ごすことができます。最近、「社会人講座」とか「生涯学習」という言葉が定着してきたようですが、実際、定年退職したお父さんや、子育ての終わったお母さんが、数年前から熱心にラテン語も聴講しています。そこで、余暇のある大学生の皆さんのなかで、「意欲的な人」には、ラテン語に親しむことをすすめます。とくに語学の教員になりたい人、語学に興味のある人、あるいは3・4年次生で時間割にゆとりがある人、大学時代にしか学べないものを授けたい人に、ラテン語の履修をすすめます。ただし、英語以外の語学（フランス語・ドイツ語・スベ

ン語)を1年生で必修科目としている学生は、まずそれに全精力を注ぐほうがよいでしょう。

ところで、「語学の勉強のこつは？」と時々尋ねられますが、ラテン語の勉強には手取り早い方法や「近道」などはなく、試験直前の「一夜漬」もききません。まさに“*Gutta cavat lapidem, non vi, sed saepe cadendo.*”「点滴石をも穿つ」という格言通り、水滴のように繰り返し同じこと、つまり、「小さな努力」の積み重ねが大切です。毎日、興味を持って、積極的に、少しずつ繰り返し、繰り返し努力していけば、終わりの日に、きっと「初志貫徹の喜び」を味わうことでしょう。このことを、昔の人は簡潔に、しかも巧みに言っています。“*Repetitio est mater studiorum.*”「反復は勉強の母なり」と。

- (4). “*Non scholae sed vitae discimus.*” (Seneca 5(4) BC~AD65) 「われわれは学校のためでなく、人生のために学ぶ」。……ローマの哲学者セネカのこの言葉は、大学の勉強にも、あてはまるのではないでしょう。何のために学ぶのか、を自覚して取り組むことです。「今の自分」に役に立つものとか、卒業に必要な科目や単位だけを拾い集めて、1460日という限られた大学4年間を終えることもできます。しかし、「今役に立つものが、将来、必ずしも役に立つとは限りません。逆に、今役に立たないと思われたものが、案外、あとで役に立つかもしれません。」。ますます多言語・多文化の世界となっていく21世紀に向けて、英語以外の言語の必要性が高まっています。欧州諸言語の源流であるラテン語を今学んでおけば、将来、現地での言葉の習得や国際交流にも、教養としてきっと為になるでしょう。高校で英語の先生をしている卒業生・Y君が先日、ラテン語の教科書や資料持参で訪ねて来て(ラテン語を勉強したことについて、懐かしがりながら)「英語を教えるのに、とても役に立っていますよ」と言っていました……。

II. 今年度開講のラテン語科目について

履修希望者が増加傾向にあるため、一応、主な対象学部、高学年優先指定、定員40名という条件付きで2クラス、すなわち、「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」(主に文学部・神学科・哲学科等、高学年優先)と「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」(主に文学部以外、高学年優先)が教科書、時間割を別にして開講されます。これは他の科目(「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」「ラテン語(中級)Ⅰ・Ⅱ」)を履修するための「前提科目」でもあり、1年間を通じて、Ⅰ・Ⅱというふうに、ペアにして履修する必要があります。カリキュラム改革後の履修登録の仕方や注意事項等については、混乱を避けるため、必ず各教科のガイダンス担当教員と事前に相談してください。「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」「ラテン語(中級)Ⅰ・Ⅱ」の講義概要については、全学共通科目の頁()も参照してください。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07501 07511	ラテン語Ⅰ文法・講読 ラテン語Ⅱ文法・講読	選	1~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」「ラテン語(中級)Ⅰ・Ⅱ」履修のための前提科目			他学科履修		重複履修

【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得をめざして

【講義内容】 前期・後期を通じて、教科書『独習者のための、楽しく学ぶラテン語』大学書林1992年を中心に、プリント資料も利用しながら、ラテン語の文法や語彙など基礎知識を身につける。

教科書の構成に従って、各課ごとに例文、解説、練習問題という順序で進んでいく。区切りのよい所で小テストを行う。

神学科のみ1年次指定科目。今年度より、哲学科他主に文学部対象(他学部は「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」を履修する)。高学年優先、定員40名。

【講義計画】 教科書を中心に講義が進められていくが、その他プリント資料で取り扱う項目は次の通りである。

- (1) 南山大学の教育理念 (HOMINIS DIGNITATI他) の解説
- (2) ラテン語の聖書のことば
- (3) ラテン語の歌(教会音楽等)の鑑賞
- (4) 英語の日常語等の由来
- (5) リアクション・ペーパーの提出。授業に関する質問、感想、提案等を、毎回メモのかたちで提出(同時に出欠の確認をとる)。
- (6) 理解を深めるための筆記小テスト。リアクション・ペーパーを利用して、随時行う。

【評価方法】 (1) 出欠をとる(欠席過多者は期末試験の受験資格を失う)。
(2) 前期・後期の筆記試験、通常の小テスト、出欠状況等をもとに、総合的に評価する。

【テキスト】 小林標著『独習者のための、楽しく学ぶラテン語』大学書林1992年。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07521 07531	ラテン語Ⅲ文法・講読 ラテン語Ⅳ文法・講読	選	2~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 語学8単位をラテン語で履修する人のための「ラテン語・文講購読コース」

【講義内容】 聖書、ギリシャ・ローマ神話、キケロなど種々の文献を講読しながら、ラテン語の実力を身につけていく。

“Non potest arbor bona fructus malos facere, neque arbor mala fructus bonos facere.” (Mt 7, 18) 「良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。」(マタイ 7, 18) このように比較的やさしいラテン語の聖書やイソップ物語から始め、ラテン語に親しみ、文法的知識や語彙等を増やしていく。

神学科は2年次選択科目。

【講義計画】 (1)文法書と辞書を使って、各自が文献(分担箇所)の講読を自宅で試みる。
(2)授業中に順番に文献解説を発表し、訂正等を受けながら、受講者一同で学び合う。
(3)時折、レポートのかたちで分担箇所の研究資料を提出する。

【評価方法】 (1)出欠をとる(欠席過多者は期末試験の受験資格を失う)。
(2)前期・後期の筆記試験、通常の発表やレポート等と出欠状況等をもとに、総合的に評価する。

【テキスト】 プリントにして配布する。『ラテン文法』中央出版社、『羅和辞典』研究社を使う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07541 07551	基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ 文法・講読	選	1~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目 との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」「ラテン語(中級)Ⅰ・Ⅱ」履修のための 前提科目			他学科 履 修		重 複 履 修

【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得をめざして

【講義内容】 前期・後期に通じて、教科書『ラテン語の学び方』を中心に、プリント資料も利用しながら、ラテン語の文法や語集など基礎知識を身につける。
教科書の構成に従って、各課ごとに例文、文法、練習問題、Memorandaという順序で進んでいく。主に文学部以外を対象とする。定員40名を超える場合には、「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」と人数の調整を行うこともある(高学年優先)。文学部は「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」を履修する。

【講義計画】 教科書以外に、プリント資料で取り扱う項目は次の通りである。
(1)南山大学の教育理念(HOMINIS DIGNITATI他)の解説。
(2)ラテン語の聖書のことば。
(3)ラテン語の歌(教会音楽等)の鑑賞。
(4)英語の日常用語等の由来。
(5)リアクション・ペーパーの提出。授業に関する質問、感想、提案等を毎回メモのかたちで提出(同時に欠欠の確認をとる。)

【評価方法】 (1)出欠をとる(欠席過多者は期末試験の受験資格を失う)。
(2)前期・後期の筆記試験、出欠の状況等をもとに、総合的に評価する。

【テキスト】 アモロス著『ラテン語の学び方』南窓社 1985年。

ギリシャ語

古代ギリシャ語といっても、時代によってかなりの相違がありますが、ギリシャの古典及びキリスト教文献が著されたギリシャ語全体を総称する名称だと考えて下さい。

「地中海世界」のコミュニケーションは、このギリシャ語で行われました。アレクサンドロス大王が統一した東地中海世界は、やがてローマ帝国によって吸収されて、一大文明（ヘレニズム）世界へと発展しました。前八世紀頃から、本来の意味でのギリシャ古典といわれる叙事詩や叙情詩がありますが、しかし、この段階では、ギリシャ語はまだ地域によってかなりの差がありました。前五世紀以降になって、アテナイがギリシャ文化の中心となり、他の地域のギリシャ語を吸収して、いわゆる古典ギリシャ語を形成しました。ギリシャ語の国際化は、アレクサンドロス大王の遠征と共に始まりました。ギリシャは前二世紀以降、ローマ人の勢力下に置かれたましたが、ギリシャ語は「地中海世界」の共通語でした。紀元後一世紀に著述された新約聖書が、ギリシャ語で書かれているのも、その証拠です。実に、古代ギリシャ語で、世界文学の古典といわれる多くの作品が残されています。古代ギリシャ語の習得はその広い世界を開いてくれる重要な鍵であります。

日本語

日本語が不足している留学生及び帰国子女を対象とした授業である。大学での専門別の研究には、1)講義が聞ける、2)論旨の整った、ある程度の長さのレポートが書ける、3)専攻分野の専門書が読める、という言語能力が要求されるので、この能力を高めることを目標に、速読、精読、そして作文に重点を置く。しかし、履修者の専門が異なるので、教材は語彙や内容の偏りを避けるために中庸のものを使用する。

この日本語履修に関しては「外国人留学生の授業科目履修に関する特例」を参照。

【評価方法】 試験・レポート・出席等で総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。